

[東京外国語大学](#) > [TUFS Cinema](#) > [TUFS Cinema 上映作品](#) > 南アジア映画特集『あるがままに』

南アジア映画特集『あるがままに』

2018年04月23日 [TUFS Cinema 上映作品](#)

原題：Astu: So be it!

上映後の解説付き 解説者：石田英明（大東文化大学 教授）



–©Gaurikaa Films

開催情報



TUFS Cinema
Tokyo University of Foreign Studies

南アジア映画特集

あるがままに

Astu: So be it!

上映日

2018年 **6月9日(土)**

14:00開映(13:30開場)

上映後解説付き

インド/2013年/マラーティー語

123分/日本語・英語字幕付き

監督:スミットラー・パーヴェー

スニール・スタタンカル

場所 **東京外国語大学**

アゴラ・グローバル プロメテウス・ホール

入場 無料/先着順/申込み不要

定員 501名

主催 東京外国語大学

共催 東京外国語大学拠点
南アジア研究センター (FINDAS)

協力 Casarika Films / Dr. Mohan Agashe / Ms. Kyoiko Das
Ms. Mizutaki Shobko / Dr. Mizuko Matsuo / Prof. Hiroyuki Ishida

日時 2018年6月9日(土) 14:00開映(13:30開場)

会場 東京外国語大学 アゴラ・グローバル プロメテウス・ホール

プログラム

- 『あるがままに』本編上映
- 解説：石田英明（大東文化大学 教授）

その他 入場無料、申込み不要（先着501名）、一般公開

主催：東京外国語大学

共催：東京外国語大学拠点南アジア研究センター（FINDAS）

協力：Gaurikaa Films / Dr. Mohan Agashe / Ms. Kyoko Dan / Ms. Meenakshi Shedde / Dr. Mizuho Matsuo / Prof. Hideaki Ishida

—

作品紹介

上映日

2018年6月9日(土) 14:00開映(13:30開場)

あるがままに Astu So be id

インド/2013年/マラーティー語/123分

日本語・英語字幕付き(日本語字幕:藤井美佳)

監督:スミットラー・パーヴェー

スニール・スタタンカル

製作:シーラー・ラーオ

モーハン・アーガーシェー

脚本:スミットラー・パーヴェー

出演:モーハン・アーガーシェー……………シヤストリ博士

イラーワディー・ハルシェー……………イラ

アディティ・タルカルニ……………ショウエタ

ミリンダ・フーマン……………マーダヴ

アムルター・スパーシュ……………チャンナンマ

ナチケート・ブールナバードレー……………アンタ(兼役)

オーム・プトカル……………ラーム

イラー・パーデー……………ダブデ教授

音楽:サーケート・カーネートカル

撮影:ミリンダ・ゾーダ

編集:モーヒト・ターカルカ

【解説】石田英明(東京文化大学教授)

TUFS Cinemaとは……

東京外国語大学が不定期に開催する

世界諸地域の映画の上映会。

上映やトーク企画を通して

世界諸地域の社会・歴史・文化などの理解を

深めることを目的として開催しています。

世界には多様な言語・文化・民族・宗教・社会があり、

さまざまな「暮らし」があります。

そして、多くの社会問題も存在します。

それらを共有し、理解を深め、

ともに考えていく機会になればと思います。



●父が突然と姿を消した

●町の雑踏を悠然と歩く美しい象、一人の老人が、その象に心を奪われ、ひたすらにあとを追う。象使いは見知らぬ老人を追いかおうとするが、老人は少年のように無邪気にはほほ笑むばかりで、そばを離れようとする。困り果てた象使いは、妻の待つ川辺のテントに老人を連れて来る。老人は、妻住の地を見つけたかのように、無邪気な笑顔で安んじている。

●舞台は西インドのマハイラシュトル州ブネー。インド古典文学と哲学の権威シヤストリ博士は、かつて東洋学研究所の長であった。二人の娘はそれぞれ独立し、博士は自宅で書生と暮らしていたが、アムグハイマと型紙知識の未婚が現れ、記憶が失われつつある。彼女が同居を望むも、書生と未婚の両立はたやすいことではなかった。父が姿を消したのは、そんなある日のことである。

●偶然が引き合わせた二人の家系、誰にでも等しく訪れる老い、父の不在で立ち現れてきたものとは

2017年
インド映画祭賞
脚本賞受賞作



【お問い合わせ】

東京外国語大学 総務企画課広報係

〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1

Tel:042-330-5150(土日祝を除く9:00~17:00)

[南アジア映画特集Facebook]

<https://www.facebook.com/TUFScinemaSouthAsia/>

[TUFS Cinemaウェブサイト]

<https://www.tufscinema.jp>

[東京外国語大学ウェブサイト]

<http://www.tufs.ac.jp>

【イベント情報などの配信】

TUFS Cinema上映会情報は、Facebook/Twitterでも配信しています。

TUFS Cinemaファンの方さま、ぜひフォローしてください。

Facebook: <https://www.facebook.com/tufscinema.gr/>

Twitter: @tufscinema

【交通アクセス】

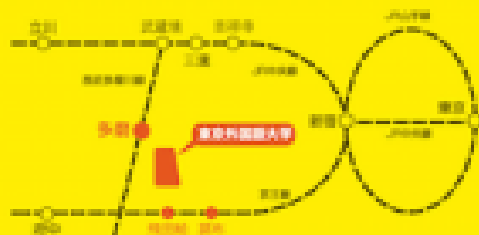
●R中央線

「武蔵境」駅のりかえ西武多摩川線「多磨」駅下車徒歩5分(JR新宿駅から約40分)

●京王電鉄

「飛田給」駅北口より多磨駅行き京王バスにて約10分

「東京外国語大学前」下車



インド/2013年/マラーティー語/123分

日本語・英語字幕付き(日本語字幕:藤井美佳)

監督：スミットラー・バーヴェー、スニール・スクタンカル

製作：シーラー・ラーオ

モーハン・アーガーシェー

脚本：スミットラー・バーヴェー

出演：モーハン・アーガーシェー・・・シャストリ博士

イラーワティー・ハルシェー・・・イラ

アディティ・クルカルニー・・・シュウエタ

ミリンダ・ソーマン・・・マーダヴ

アムルター・スパーシュ・・・チャンナンマ

ナチケート・プールナパートレー・・・アンタ（象使い）

オーム・ブトカル・・・ラーム

イラー・バーテー・・・グプテ教授

音楽：サーケート・カーネートカル

撮影：ミリンダ・ゾーグ

編集：モーヒト・ターカルカル

【解説】石田英明 [大東文化大学教授]

【あらすじ】

父が忽然と姿を消した_____。

町の雑踏を悠然と歩く美しい象。一人の老人が、その象に心を奪われ、ひたすらにあとを追う。象使いは見知らぬ老人を追い払おうとするが、老人は少年のように無邪気にほほ笑むばかりで、そばを離れようとしなない。困り果てた象使いは、妻の待つ川辺のテントに老人を連れて帰る。老人は、安住の地を見つけたかのように、象のそばで安らぐのであった。

舞台は西インドのマハーラーシュトラ州ブネー。インド古典文学と哲学の権威シャストリ博士は、かつて東洋学研究所の長であった。二人の娘はそれぞれ独立し、博士は自宅で書生と暮らしていたが、アルツハイマー型認知症の兆候が現れ、記憶が失われつつある。娘夫婦が同居を試みるも、育児と介護の両立はたやすいことではなかった。父が姿を消したのは、そんなある日のことである。

偶然が引き合わせた二つの家族。誰にでも等しく訪れる老い。父の不在で立ち現れてきたものとは_____。

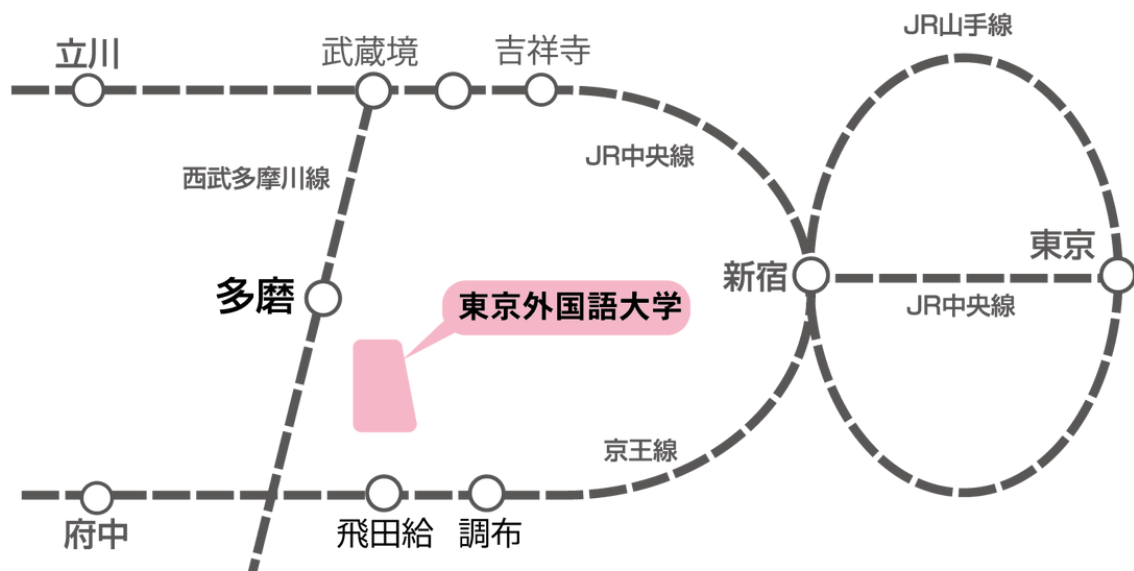
2013年 インド国家映画賞脚本賞受賞作。





©Gaurikaa Films

会場のご案内

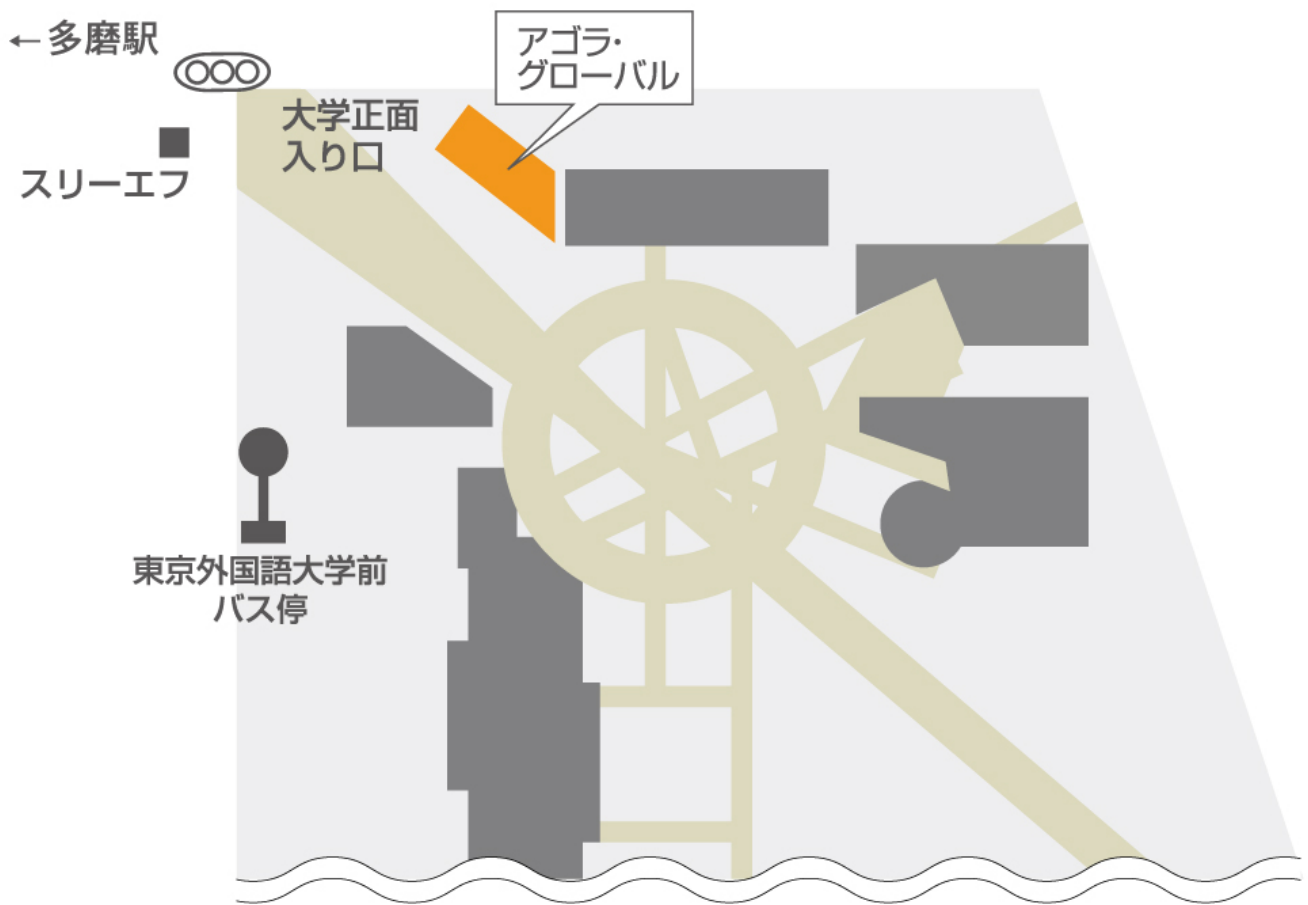


◆〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1

◆JR中央線「武蔵境」駅のりかえ 西武多摩川線「多磨」駅下車 徒歩5分
(JR新宿駅から約40分)

◆京王電鉄「飛田給」駅北口より多磨駅行き京王バスにて約10分 「東京外国語大学前」下車

[Google マップ](#)



キャンパスマップ



お問い合わせ

東京外国語大学 広報・社会連携課（土日祝をのぞく 9:00-17:00）

〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1

Tel: 042-330-5441

【TUFS Cinemaウェブサイト】

<https://www.tufscinema.jp>

【東京外国語大学ウェブサイト】

<http://www.tufs.ac.jp>

[イベント情報などの配信]

TUFS Cinema 上映会情報は、Facebook／Twitterでも配信しています。TUFS Cinemaファンの皆さま、ぜひフォローしてください。

Facebook: <https://www.facebook.com/tufscinema.pr/>

Twitter: [@tufscinema](https://twitter.com/tufscinema)

| | |
|----------------------|----|
| <input type="text"/> | 検索 |
|----------------------|----|



© 2017 Tokyo University of Foreign Studies.
All Rights Reserved.